

fidata HFAD10-UBX の導入(7)

—CD の再生経路の比較試聴—

1. はじめに

前報(3)までで動作確認が終了しましたので、CD の再生について、HFAD10-UBX 以外の再生経路との比較を行います。

2. fidata HFAD10-UBX の試聴方法

それぞれの再生機器と経路は下記のとおりです。

経路 A) HFAD10-UBX ドライブ読み出しの経路

A-1) HFAD10-UBX→HFAS1-S10→Brooklyn DAC+→TruPhaseA

A-2) HFAD10-UBX→PC→Sonica DAC→DA-3000→Brooklyn DAC+
→TruPhaseA

経路 B) EMT981 再生経路

B-1) EMT981→TruPhaseB→TruPhaseA

*接続は TruPhase の追加導入(7)の結果を踏襲

B-2) EMT981→CRV-555→DAC1→TruPhaseA

経路 C) SA11-S2 再生経路

B-1) SA11-S2→TruPhaseB→TruPhaseA(CD 層)

B-2) SA11-S2→TruPhaseB→TruPhaseA(SACD 層)

*接続は TruPhase の追加導入(7)の結果を踏襲

経路 D) 4716 信楽トランスポート再生経路

4716 信楽→CCV-5→DAC1→TruPhaseA

なお、EMT981、SA11-S2、CRV-555、CCV-5などは、GPS-777からのクロックを、Brooklyn DAC+は DA-3000 経由で ABS-7777 からのクロックを供給しています。

試聴に使用する CD と SACD は下記のものとしします。

Evidence EVCD015

ベートーヴェン Sonata for cello and piano No. 1 他

フランソワ＝フレデリック・ギィ (ピアノ)

グザヴィエ・フィリップ (チェロ)

WARNER CLASSICS WPCS-13850 (SACD/CD ハイブリッド盤)

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト

ピアノソナタ第 11 番・第 8 番・第 14 番

幻想曲ハ短調

ユンディ (ピアノ)

3. fidata HFAD10-UBX の試聴結果

HFAD10-UBX の経路 A-1)では、ベートーヴェンのチェロソナタは、透明度が高く切れ味がよくダイナミズムに富んだ音です。

モーツアルトのピアノソナタは、透明度が高くアタック感のあるダイナミックな音です。

HFAD10-UBX の経路 A-2)では、ベートーヴェンのチェロソナタは、音質的には A-1)に似ていますが、切れが甘くなり、ダイナミズムが後退します。

モーツアルトのピアノソナタは、やはり透明度やアタック感が後退します。

A-1)と A-2)は読み出しのドライブは同じですが、A-1)では送り出しは HFAS1-S10 のファームウェアであり、A-2)は PC にインストールした Any DVD のソフトであって、再生経路も長くなっています。

この HFAD10-UBX は、今回新規導入のシステムにおける本格試聴で、A-1)の再生経路には USB リベラメンテや USB アクセラレイザーが加わっています。

EMT981 の B-1)では、ベートーヴェンのチェロソナタは、チェロの滑らかで胴鳴りも豊かで、ピアノはアタック感もあり、よく響きます。

モーツアルトのピアノソナタは、まるやか、かつ力強い音です。

EMT981 では、アナログバランスアウトとして、TruPhase の追加導入(7)で追加した XLR リベラメンテやバランスアナログアクセラレイザーの効果が効いています。

EMT981 の B-2)では、ベートーヴェンのチェロソナタは、B-1)と同じ傾向の音ですが、B-1)に比べるとチェロの胴鳴りやピアノのアタック感が後退し、解像度はかなり落ちます。

モーツアルトのピアノソナタは、まるやかでおっとりした音で、B-1)に比べるとアタック感が薄れます。

B-2) は EMT981 のデジタルアウトを CRV-555 でリクロックし、DAC-1 を経由する経路であり、以前はこの経路としており、懐かしい音が戻ってきました。

SA11-S2 の C-1)では、ベートーヴェンのチェロソナタは、ベートーヴェンのチェロソナタは、明るく伸び伸びとしてキラキラとよく響く音でバランスアウトにした効果が出ています。

モーツアルトのピアノソナタは、これも開放的な音です。

SA11-S2 の C-2)では、モーツアルトのピアノソナタの SACD 層を聴きましたが、やはり開放的でよく響く音です。

SA11-S2 は同じデジタルプレイヤーの EMT981 と比べると、おおらかで細かいニュアンスの表現が EMT981 に及びません。

SA11-S2 の導入はかなり以前ですが、アナログバランスアウトは最近のことです。

47 研 4716 信楽の D)では、ベートーヴェンのチェロソナタは、上記の B-2) に似て、チェロの胴鳴りやピアノのアタック感が後退した音になります。このことは DAC-1 が共通であり、D)は RCA デジタル入力、B-2)は BNC デジタル入力の違いです。モーツァルトのピアノソナタは、これも上記の B-2)のようなまろやかでおっとりした音で DAC-1 が共通のためと思われます。

D)は 4716 のデジタルアウトを CCV-5 でリクロックし、DAC-1 を経由する経路であり、EMT981 や SA11-S2 の導入以前の最古参の再生経路です。

以上の試聴の結果、これまでの CD 再生の歴史を辿ることができ、それぞれの過程が分りました。また、使用する機器や再生経路や導入時期の特徴が良く出ており、主要機器だけではなく、ケーブルやアクセサリやクロックや仮想アースなどを含めての音質となっており、それらの重要性も認識できました。

EMT981 は、古い製品ですが、アナログバランスアウトとし、ケーブルやアクセサリやクロックや仮想アースなどの助けを借りて、ある意味伝統的な CD プレイヤーの極致に達しています。

一方、HFAD10-UBX と HFAS1-S10 の組み合わせは、これもケーブルやアクセサリやクロックや仮想アースなどの助けを借りて、いままでの PC 用ドライブを使用した PC オーディオから一歩抜け出した新しい音の領域を開拓できたと感じています。

4. まとめ

HFAS1-S10 と HFAD10-UBX の組み合わせとそれ以外の再生経路の比較試聴を実施しました。EMT981 は伝統的な CD プレイヤーの極致に達しており、HFAD10-UBX と HFAS1-S10 の組み合わせは、新技術による新しい音の領域に達していると感じています。

以上